

第三者評価結果

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<p><コメント></p> <p>全体的な計画は、向丘はなみずき保育園の理念や方針、目標、年齢別目標、養護と教育、食育、健康・安全・衛生、子育て支援などを整理し、地域の状況を踏まえた上で立案している。4年前、公立の保育園から、社会福祉法人の運営に代わり、建物も新築している。1階には乳児クラス、2階には幼児クラスを配置している。保育の内容は、旧公立時の良いところを残しつつ、向丘はなみずき保育園の理念や方針に沿った保育を取り入れて実施している。保護者からも、公立時に実施されていた伝承遊びは残してほしいなどの意見があり、地域や保護者の意見を取り入れながら、「子どもの主体性」を目標に掲げた全体的な計画により、保育を実践しているところである。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b
<p><コメント></p> <p>「みんなが集まる大きなお家」を、向丘はなみずき保育園のモットーとして、子どもたちが楽しく集まる園を目指している。園は集合住宅に囲まれているが、すぐ近くには公園があり、自然環境に恵まれている。天気がよい日は、子どもたちが袋を持って公園に行き、ドングリや落ち葉を拾い、ドングリの独楽やクリスマスリースを作っている。園内は常に清潔を心がけ、掃除や消毒を行っている。午睡はコットを使用し、子どもたちが安眠できる環境を整えている。特に0歳児はおもちゃを口にするため、常に消毒済みのもので遊べるようにしている。おもちゃだけでなく、窓やドア、ロッカーなど細かい部分まで消毒を行い、衛生を保つよう心掛けている。牛乳パックでごっこ遊びの机や椅子、毎日使用する靴下入れなどを、保育士が手作りで作成し、楽しく生活ができるよう工夫している。保育士自身が、子どもが安心して遊び、安心して頼れる環境の一部と考えている。各クラスに子どもたちの作品を飾り、楽しい雰囲気を作っている。</p>		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>子どもたちは一人ひとり、成長の過程が異なるため、個々の発達を見据えながら、また、家庭での環境にも配慮しながら、保育を行っている。生後5ヶ月で入園してきた乳児も、今は離乳食も後期になり、つかまり立ちができるようになっている。喃語(乳児が発する意味不明の言葉)を発していた子どもも「ママ～」など、一語文が言えるようになり、大きく成長している。子どもたちが何かできた時は、保育士も共に喜び、ほめながら、時には代弁して、愛着関係を構築している。年齢が大きくなるにつれ、自分のことは自分でできるようになってくるが、時には甘えてくることもある。その時は、しっかり抱きとめ、子どもが満足できるようにしている。否定的な言葉は使わず、子どもの状態に応じて受け止めている。保育士間で、子どもの受け止め方の違いなど温度差があり、今後の課題としている。</p>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>毎日の生活の中、遊びを通して、子どもたちに基本的な習慣が身に付くようにしている。スプーンを上から握って食べていた子どもが、下から持って掬えるようになったり、鉛筆の三点持ちができるようになると、「そろそろお箸を使ってみませんか」と保護者に働きかけ、園でも箸に移行したりしている。おむつ替えは、「さっぱりしようね」など声かけしながら、トイレのベッドで行っている。外遊びの後には、洋服をすべて着替えて、さっぱりしてから食事や午睡の時間に移っている。3歳くらいになると、着替えを自分でできる子どもは見守り、戸惑っている子どもには、さりげなく保育士が手伝いながら支援している。年長児は年明けくらいから、小学校での生活に向けて、午睡の時間をなくしているが、身体を休める時間として、絵本を読んだり静かに遊ぶ時間としている。子どもが主体的に生活習慣を身に付けていくよう支援しているが、保育士が手を出しすぎたりしないよう、連携を取りながら進めているところである。</p>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b
<p><コメント></p> <p>今年度の目標である「子どもが主体的、自発的に遊ぶ」ことができるよう、コーナーを充実し、環境作りを行っている。おままごと遊び、折り紙遊び、粘土遊び、人形遊びなど、子どもたちが自分の好きな遊びを自由に選ぶことができるよう、各クラスのコーナーを整えている。年長児は人形コーナーで、洋服を着替えさせたりしながら、ボタンかけが上手にできるようになり、自分の着替えも上手になっている。保育士が牛乳パックやフェルト、紐を使い、手作りおもちゃを作成して、子どもたちと楽しんでいる。独立した絵本コーナーが園内にあり、子どもたちの秘密基地になっている。子どもたちは絵本をゆっくり読んだり、興奮した時にクールダウンする場として使用している。子どもたちの大人気の場所になっている。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>0歳児は、安心・安全・衛生の三点に配慮し、子どもたちが快適に過ごすことができる環境作りを行っている。子どもたちが楽しむことができるおもちゃを入れ替え、消毒後の清潔なおもちゃで遊ぶことができるよう取り組んでいる。長時間保育でも飽きないようにしている。午睡の際は、SIDS(乳幼児突然死症候群)に注意し、5分置きに呼吸の確認をして記録し、保護者にも状況を配信している。また、お座りができるようになってきた子どもには、円座を用意し、安定して座れるよう工夫したり、這い這いができるようになった子どもには、危険のないようサークルで安全を保ったり、よちよち歩きができるようになった子どもには、転倒に気を付けるよう細心の注意を払っている。</p>		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>感染症に罹患しやすくなる時期であるため、咳やくしゃみがある場合は、他の子どもと少しテーブルを離すようにしている。牛乳パックで作った踏み台を使って、一人で上手に手洗いができるよう配慮している。おままごとを出して遊んだり、絵本を読んでもらったりと、子どもたちが異なる遊びをしている時は、サークルを使って集中して遊べるよう工夫している。テーブルの上のドリンクバー遊びで、ボタンを押すなど、見立て遊びをしている場面が多くみられる。子どもたちの想像力を大事にして声かけをしている。這い這いをしながら探索活動をしている子どもには、行きたいところ、やりたいことができるよう配慮して、危険がないか見守っている。</p>		

【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>以前は一斉保育を主に行っていたが、子どもたちの主体性を尊重し、自主的な活動ができるよう保育を行っている。子どもたちはコーナー遊びなど、自分で選び、自分で考えた遊びに向っている。保育士に読んでもらった絵本から、「ふんわりトンネル」という劇に取り組み、子どもたちが役割を決め、劇中のトンネルや木などを製作し、自分たちで配役も決め、生活発表会で発表している。コロナ禍の中、家族の見学は2名までと制限したが、発表の喜びを共に味わっている。また、給食当番や花壇の水やり当番など、当番活動も自主的に行っている。園からの帰り道の歩き方についても皆で考え、「一人で走って行かないで、家族と手をつないで歩こう」など、子どもたちがルールを決めている。4、5歳児には、「〇〇ちゃんは今どんな気持ちかな」などと投げかけ、相手の気持ちを思いやることができるよう、働きかけを行っている。</p>		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>障害のある子どもには、個別指導計画を作成し、個別の対応を行っている。保護者や療育センターと連携を取りながら保育にあたっている。入園時は、不安でパニックになったりしたが、今は落ち着いて生活を送っている。身体的な障害のため、補装具を使用している子どももいるが、友達と仲良く遊んでいる。自分で困難なところは、保育士が手伝い、楽しく生活ができるよう配慮している。3歳になるとクラスが2階になるので、階段の上り下りに注意している。障害のある子どもがクラスにいることで、子どもたちに相手を思いやる気持ちが強く芽生え、大きな成長がみられている。</p>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>18:30～19:30、延長保育を行っている。延長保育は1階のホールで行っているが、利用人数は2～3人と多くない。保育士が十分関わり、遊びながら保護者を待っている。補食として、おかかや昆布など、毎日異なる味のおにぎりや麦茶を提供し、子どもたちは、おにぎりをとても楽しみにしている。遅番の保育士が担当しているが、昼からの子どもたちの様子は、各クラスからの「引き継ぎ簿」で申し送り、子どもの様子の確認や保護者への伝達を行っている。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>小学校の入学に向けて、近隣2校の小学校と連携している。小学校の見学や、1年生と交流する場を設けている。卒園近くになると、保護者との懇談会を実施し、園と小学校の違いなどを説明し、保護者の不安を解消するようにしている。子どもたちも日々の生活の中で、小学校に行くという楽しみを膨らませている。地域の連携会議などにも参加して、情報を入手するよう心がけている。</p>		

A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b
<コメント> 食事や排せつ、園庭遊び、食育、プールなどのマニュアルの他、健康についてのマニュアルも整備している。マニュアルには、朝の視診、室温・湿度、手洗い、歯磨きなどを明記している。今年度、歯磨きは飛沫感染防止のため、口をうまくすすぐことができる5歳児のみを対象に行っている。毎朝、子どもたちは家で検温して登園し、園に来てからも、保育士や看護師が、鼻水や咳が出ているか、機嫌は良いかなどをチェックしている。昨日の子どもの様子や朝の視診の様子などを健康日誌に記録し、朝のミーティングで報告を行い、全保育士が共有するようにしている。特に乳児は、午睡時のSIDS対策として、上向きに寝る、5分おきに呼吸の確認をするなどしている。		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<コメント> 乳児の健康診断は、小児科の嘱託医により2ヶ月に1回実施し、幼児クラスは年2回、健康診断を実施している。健康診断の結果は個別の「すこやか手帳」に記入し、保育士の確認後、保護者に連絡している。歯科検診は、年2回嘱託医より行い、結果を「すこやか手帳」に記入し、保育士の確認後、保護者に連絡している。乳歯の生え具合などは、保護者にとって、育児の喜びにつながっている。日々、健康な生活を送るため、看護師による「健康集会」を年中児や年長児を対象に行っている。手の洗い方では、特殊液を手塗って、洗い残りを確認して、きれいに黴菌をとる洗い方を体験したり、咳をしたりすると黴菌がどこまで飛ぶのかを、糸玉を使って実験したりして、健康生活の重要性を学んでいる。		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b
<コメント> 入園時の親子面談で、担当保育士や園長、栄養士などにより、アレルギーがないか確認している。アレルギーのある子どもは、医師から指示書入手し、除去食を提供している。除去食はトレイに子どもの名前や、卵などの除去食名の札を乗せ、調理員が運び、担任と確認チェックを行い、さらに他の保育士とのダブルチェックを行う体制をとっている。除去食の子どもは、他の子どもとはテーブルの距離を置き、必ず保育士が傍で見守り、間違いのないように対応している。		
A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	a
<コメント> 委託業者により食事を提供しているが、業者も食育に非常に協力的であり、力を入れている。子どもたちは、ピーマンやナス、オクラ、サツマイモ、カボチャなどを園の畑で栽培し、収穫したものをどうやって食べたらいいのかを考え、「キュウリを塩でもんで、塩もみにして食べよう」などが育った野菜を調理してもらい、給食に出してもらっている。今まで食べられなかったピーマンが食べられたなど、喜びを感じている。秋には、栄養士による「サンマ祭り」を行い、園庭で秋刀魚を観察したり、触ったり、骨の取り方を教わったりして、綺麗に食べることができ、食べ物への感謝の気持ちを育てている。離乳食で新しい食材を提供する時には、保護者と相談の上、家庭で確認してから、園で提供するようにしている。月1回、給食会議を開催し、献立などの話し合いを行っている。		

【A16】	A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
<コメント> 子どもたちは、野菜に毎日水やりをし、成長を楽しみにしている。花から実になる様子、収穫した野菜の形や匂いなどを確認して、収穫の喜びを味わい、野菜を慈しんでいる。また、収穫した野菜を調理してもらった時の驚きや喜びを体験し、今まで食べられなかったものが、食べられるようになり、成長につながっている。給食会議で業者と話し合い、メニューの工夫などを行っている。			

A-2 子育て支援

			第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
【A17】	A-2-(1)-①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> 連絡帳の使用を止め、デジタル化に変更して、保護者への連絡は、すべてコドモンを使って配信している。コロナの影響により、保護者は保育室に入れず、玄関ホールでの対応となっている。園内の活動がわかるように、玄関ホールに今日の保育の内容やクラスだよりを掲示している。今までは今日の献立のサンプルを展示していたが、現在は取りやめ、毎日、コドモンで配信している。家庭での子どもの様子も保護者から配信してもらっているが、毎日細かに様子を知らせてくれる保護者もいるが、なかには配信してこない保護者もあり、家庭での様子が把握できない子どもがいる。登降園時に確認しているが、今後の課題である。			
A-2-(2) 保護者等の支援			
【A18】	A-2-(2)-①	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<コメント> 保護者からの個別の相談には、いつでも対応するようにしている。保護者からの相談は、担任や主任が対応し、園長が関わることもある。「家庭でおかずを作っても、ご飯だけしか食べないので心配」など、家庭での悩みを配信してくることがある。園ではおかずもご飯もきれいに食べていることを伝え、安心して返事が返ってきたりする。「悪いことをした時は、鬼のアプリを見せる」と言う保護者には、子どもを怖がらせるのではなく、何故駄目なのか、優しく説明したほうがよいことをアドバイスしている。メールでは言いやすいのか、すぐに返事をしてくる保護者が多い。			
【A19】	A-2-(2)-②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<コメント> 子どもの服から煙草の匂いがする時には、保護者にどこで煙草を吸っているのか確認し、できるだけ子どものいないところで吸うようアドバイスしている。子どもの身体面、行動面に変化がないか、常にチェックするようにしている。園の理念「子どもの最善の利益」を図っていくことを、心がけている。家庭で権利侵害が起こっていないか、また、園での権利侵害は絶対起こさないことを基本に置いている。保育士の言葉かけや態度が権利侵害につながっていないか、研修会などで意識を高め、していくことが必要と考えている。			

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>毎年、職員が自己評価を行い、自分の目標、子どもに対する項目、保育、同僚に対する項目などをチェックして、1年を振り返り、次の目標を立てている。年度末の園長との面談でも、あらためて自己を振り返っている。前年度できなかった部分は、達成できるよう意識して保育にあたるようにしている。若い保育士が多く、自己評価や研修等により研鑽を積み重ね、専門性の向上を図っているかなければと思っている。</p>		